



五小だより



五小ブログ



五小ボランティア

7月号

令和5年 6月 30日

国分寺市立第五小学校

校長 橋本 弥記

記憶の中の浜風

校長 橋本 弥記

浜風に一喜一憂若き日々

この句の作者である江夏豊は、季語が無いことを指摘されると「甲子園の浜風は、秋！」と答えたと「俳句いまむかし」(坪内稔典：著 毎日新聞出版)に記されています。甲子園を本拠地とする阪神タイガースに在籍していたのは、高校卒業後の9年間の「若き日々」です。残念ながら「浜風」は季語ではないので、無季語の俳句ということになるのだと思いますが、わかる人にはわかる感じや思い入れが何やら伝わるのか、いろいろなところで取り上げられる句でもあります。

今更ですが、今年度の運動会は久しぶりに得点と勝負を競うやり方で実施しました。得点板の数値の変動に、コロナ前の運動会を経験しているはずの高学年も、意外とどよめいていました。得点に一喜一憂する児童の姿に、胸の奥が熱くなりました。今年度初めての試みであった補欠選手児童VS本校全教職員のエキシビジョンマッチリレーも運動会を盛り上げました。教職員チームの走者を抜かした児童の姿が校庭を大いに沸かせていました。また、力走する先生たちにハイタッチしに来る児童が最後の方はやたらと多くなっていました。勝っても負けても一喜一憂しても達成感がもてるのは、みんなが本気で取り組んでいたからこそだったと思います。その運動会のソーラン節の振り付けにしか見えない「ジンギスカン」を、日光移動教室前にキャンプファイヤーの練習として踊る6年生も、練習とは思えない勢いを見せていました。移動教室中は常に天気を心配していましたが、実施できたキャンプファイヤーで「ジェンカ」を踊りながら「右、右、左、左、前、後ろ、前、前、前」と自主的に全員でそろえて歌う姿も、実に楽しそうでした。日光移動教室については、随時のブログ更新でお知らせしてきましたが、閲覧者数の多さから保護者の皆様の関心の高さが、こちらにも伝わってきました。

誰にでも得意なことや不得意なことがあり、一生懸命頑張ってもうまくいかないこともあり、浜風が味方になるとは限らないようなことがあっても、みんなで取り組む心強さや喜びが味わえるのが学校行事の魅力です。学習指導要領では、学校行事の目標を「全校または学年の児童で協力し、よりよい学校生活を築くための体験的な活動を通して、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養いながら」合意形成・意志決定する力や自己実現を図ろうとする態度等の資質・能力を育成することを目指す、としています。五小の学校行事は、「」の部分に関してはかなり頑張っていると自負しています。

阪神タイガース時代の江夏豊選手の存在が大きな役割を果たす小川洋子の小説「博士の愛した数式」の中で、「記憶」は重要なキーワードとなっています。冒頭に挙げた俳句からは、甲子園で一喜一憂した若き日々の記憶を、作者が懐かしく思っていることが伝わってきます。学校行事は教育的役割だけでなく、友達や家族と共有できる濃厚な思い出として残る可能性をもつ点が、様々な教育活動の中でも特徴的です。児童一人一人が主役として活躍し、本人だけでなくご家族の方々の幸せな記憶にも残るような学校行事を、これからも計画・実施していきたいと改めて思います。10月末には60周年記念式典や記念集会を、年明けには展覧会を実施します。それもまた、各学年の児童の本気や所属感・連帯感を高め、ご家庭とも思い出を共有できる機会になればと思います。